

～安全と安心の実現～

2009年9月30日発行 9月号 No. 176

◇9月15日の正副本部長会議前に参加したセミナーで

副本部長 山田正信〔足立支部 (株)森田商運〕

読売の論説委員を経た橋本五郎氏が「どうなる日本！」～総選挙の総括と今後の政権の課題～と、銘打ってのセミナーだった。

他団体の主催とは言え、是非拝聴すべきだとの意見が多く、あえて正副本部長会議の日程を同日ぶつける事で殆どの役員が受講することになった。

どの様な切り口で選挙を総括し民主政権の今後を占うのか期待をしていたのは私だけではなかった筈だが・・・講義序盤から中盤まではどうも話題が煮え切らない、終盤に至ってはお涙頂戴的な内容で時間を経過させていたように思えた。

正副会議後の酒席で何方かが言った。「プロでも読みきれないのだ」なるほどと思う、善し悪しは別に民主政権の実力も実行力も未知数で計り知れないのだ。妙にセミナー主題がほろ酔いの頭に刻まれた・・・「どうなる日本！」

◇支部ロジ研 高市 好人〔千代田支部 新聞輸送(株)〕

このところ地震が多いと感じているのは私だけでしょうか。東海地方や九州で震度5を観測したかと思えば、関東でも2、3日連続で小地震が続きました。関東大震災、東海地震、東南海地震。嫌な予感が頭をよぎります。

10年ほど前まで、新聞社で編集者をしていました。新聞の記事を決め、見出しを作り、割付をする部門です。いくつか大きな事件・事故の紙面作りを経験しましたが、強く印象に残っている中に二つの大地震があります。津波で200人以上の死者を出し奥尻島を破滅させた北海道南西沖地震。そして死者6000人以上を出した阪神大震災です。

北海道南西沖地震の発生は夕方離島、阪神大震災の発生は早朝で大都会と条件は異なりますが、いずれも発生から被害状況がかなり分かるまでに6、7時間かかりました。特に阪神の場合は日中で都会の真ん中という条件にも係わらず、通信・交通が途絶し、情報がほとんど入ってきませんでした。後になって被害に遭われた会社の方から話を聞きましたが、一様に「何がなんだか分からず、会社のことより自分や家族の身を守るので精一杯でした。情報が全く入らず、不安がつのりしました。日ごろから行動の手はずをきちんとしておけばと悔やまれました」、と話されました。

第2の関東大震災はいずれ必ずやってきます。「お宅の会社、その対策は」、と聞かれれば、「ほとんど0です」、と答えるしかないのが悲しい現実です。トラック毎に水と乾パンを積んでいますが、どれだけ効果があるか。

当社の場合、新聞の輸送という半公共的使命がありますので、事態が安定するまで休みというわけには行きません。阪神大震災の場合も翌日の新聞が、あらゆる手立てを尽くして配達されました。そのためには、従業員の確保、トラック、燃料の手当てなど、普段からやっておかなければなりません、日々の仕事に流されてなかなか手を付けられずにいるのが実情です。また、やり始めると大変だと躊躇している面もあります。

ロジ研の皆さんにも、住民の必需品の輸送を担うという重要な使命を果たしている方がたくさんいらっしゃいます。きっといろいろな対策をなさっているのではないかと思います。「我々はこんな対策をしている」、「こういう工夫がいいよ」。ぜひ、ご教授いただきたいとお願いします。

◇お店紹介

ロジ研正副で使わせていただいた、居酒屋系チェーン店の日本海「海の華」をご紹介します。

日本海チェーン店の中ではランクが上の店で、個室のある少し贅沢な作りです。お刺身、お寿司がとても新鮮で、焼酎や良く冷えた冷酒、仕上げは寿司で。 営業時間 PM5:00～AM0:00

<http://www.nihonkai-sushi.com/shop/uminohana/top.html>

日本海「海の華」品川区大崎3-6-30高野ビル2F

JR山手線 大崎駅日本海大崎店裏 TEL03(3495)3267

◇お知らせ

ロジ研HPがバージョンアップのため、10/6(火)17時前後、一時使用できなくなります。ご迷惑をおかけします。

◇外部寄稿の採用について

ロジ研広報委員長 鈴木 貢〔葛飾支部 (有)すずか梱包運輸) 日ごろより「ひびき」をご愛読くださりありがとうございます。

さて、広報では先ほどの編集会議で、紙面の刷新を計り、より必要とされる情報をよりタイムリーにお届け出来るようにしました。

今回の部外者寄稿はその一環で、第一回目はロジ研のメンバーは既に顔なじみであります、一昨年のロジ研のフォーラムでコーディネーターをお勤めいただいた、有限会社エイチ・アイ・プランニング代表 岩崎 仁志様に原稿をお願いすることにしました。

今回から、3回に亘り、彼の事業者に於ける安全理論を展開していただく予定であります。

皆様には彼のトラック事業者に対する思いを汲み取っていただき、自社の安全に少しでも寄与できるのであれば幸いと存じます。

◇「必ず防ぐ！！交通事故。」

有限会社エイチ・アイ・プランニング代表 岩崎仁志

物流業を営む上で、最も意識すべき事は何か？この問いに「安全」、と答えられる経営者の方は決して少なくないはず。にもかかわらずトラックが引き起こす交通事故が、目立ちます。現在日本国内を走る車の数は約7千万台、その中でトラックは880万台と言われています。さらに事業用トラックになるとわずか140万程度。ちなみに昨年交通事故による死者数はおよそ5千人でしたが、その1割近くが営業貨物車両を第一当事者とする事故でした。つい先日とも長崎から来た長距離大型トラックの犠牲になり、消防士の方々3名が亡くなったばかりです。このような悲惨な事故は、とにかく徹底的に防がねばなりません。これ位は大丈夫だ、という油断が大きな事故を引き起こす、と考えましょう。デジタル式タコグラフやドライブレコーダーの活用、点呼の徹底はもちろん運輸安全マネジメントに盛り込まれているプログラムは、怠れば会社の存続さえ危うくなります。安全大会など定期的に行い、社員に“安全”を意識させる努力も致しましょう。

2007年度国内貨物の87%(トンキロ)を輸送しているのが営業トラックです。このデータを堂々と自負するためにも、いまわしい事故は必ず未然に防ぎたいものです。

◇本年度の温故創新で訪ねる秋山兄弟とはⅢ(前回からの続き)

弟の秋山真之(あきやま さねゆき)、1868(明治元年)～1918(大正7)。

軍人・松山藩士秋山久敬の五男。15歳で上京、実兄好古宅に寄寓、やがて親友の正岡子規と東京・神田に下宿する。

1886年海軍兵学校に入学、同校を主席で卒業する。日清戦争を経て97年アメリカに留学、近代米国海軍戦術を究め、緻密なシステム思考で海軍有数の戦術家へと成長する。

1899年イギリスに駐在、1900年に帰国、常備艦隊参謀となる。

日露戦争では、中佐として連合艦隊司令長官東郷平八郎の作戦主任参謀として活躍、日本海海戦では遠来のバルチック艦隊を迎え、「皇国の興廃此の一戦に在り 各員一層奮励努力せよ」の乙旗を旗艦三笠に掲げ、伊予水軍伝来ともいわれる「丁字戦法」を駆使し、意表を衝く敵前旋回を展開、敵艦隊を撃滅完勝して戦局の大勢を決した。

「敵艦見ユトノ警報ニ接シ、聯合艦隊ハ直ニ出動、之ヲ撃滅セントス。本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」の報告文にみられる海軍きつての名文家としても知られる。

1917年中将に昇格したが、待命を受ける。翌、1918年2月4日、盲腸炎から腹膜炎を併発死去する。真之49歳のときである。

◇お知らせ《行事予定》

○10/7(水)16:00～ 正副本部長会議 東ト協6F 小
17:30～ 幹事会 東ト協6F 中

○10/16(金)、17(土)温故創新(松山)

○10/22(木)18:00 青年部オープンセミナー(東ト協4F) 予定

○10/29(木)17:30 経営実務セミナー「安全運転と薬」(仮題)

○12/9(水) 正副本部長会議、幹事会(予定)